学校を核としたまちづくり及びエリア構想の検討範囲

西東京市では築 65 年までを目安に中学校の建替えを進めており、その機会に<mark>学校を行政サービス機能や地域交流の拠点として複合化・多機能化</mark>する方針です。

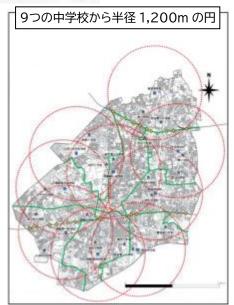
また、学校周辺の土地利用も見直し、安全・安心な空間の創出や防災機能の強化、地域活動の場の確保などを総合的に進めることで、学校教育だけでなく、居場所や活動・交流の場の総合拠点となる「キーステーション」としての役割を果たします。



複合化・多機能化した中学校を中心とした 半径1,200m程度の範囲を「歩いて行ける 距離」とします。

西東京市9つの中学校を中心に円を描くと、市内全ての人々が行政サービス機能等を歩いて行ける距離で受けられることになります。

9つの中学校	田無第一中学校
保谷中学校	田無第二中学校
ひばりが丘中学校	田無第三中学校
青嵐中学校	柳沢中学校
田無第四中学校	明保中学校



このまちづくりの第一歩として、本懇談会では、

田無第三中学校周辺エリア構想を検討します!

田無第三中学校周辺エリア構想とは

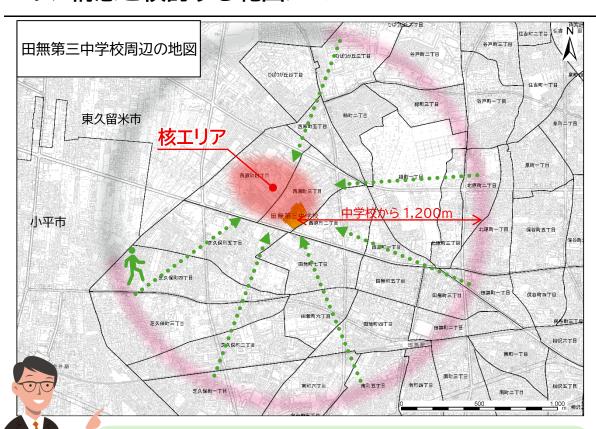


エリア構想とは、まちづくりの前段階として、将来像や方向性といった基本的なビジョンや計画の骨格です。

本懇談会では、田無第三中学校を核とした周辺の将来像を示す「コンセプトイメージ」や、第2回懇談会で話し合った現状と課題に対する具体的な方針について話し合います。

まちづくりの前に、まず将来像を考えるということなのね! でも、コンセプトを考えるにしても、どの範囲で考えたらいいのか しら?

エリア構想を検討する範囲について



学校を中心にした 1,200mの範囲でまちづくりを検討するにあたっては、範囲内の土地利用の違いから、全体を一律に構想するのは難しい状況です。そこでまず、中学校の建替候補地と土地利用的に一体的に考えるべき範囲を『核エリア』として設定しました。

1,200mの範囲の皆さんが田無第三中学校に集まりサービス機能等を受けることを想定しているため、この『核エリア』に対する構想が、1,200m圏域全体のまちづくりの考え方を示すものと考えています。

本懇談会では、『核エリア』を対象に構想を検討していきます。

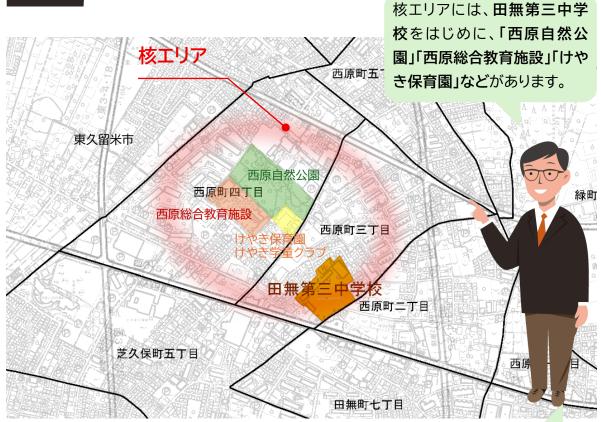
つまり懇談会では、この**『核エリア』のコンセプトや課題解決のための具体的な方針**を考えればいいのね!

核エリアとは



現在、田無第三中学校は現地建替えと西原総合教育施設での建替 えの2パターンが候補となっています。

建替位置が決まり次第、拠点整備区域を設定し、重点的に整備を検討します。その区域になると予想される、西原町3・4丁目内に核エリアを設定しました。



この核エリアを踏まえて、本日は<mark>エリア構想のコンセプト</mark>について話し合っていきましょう。

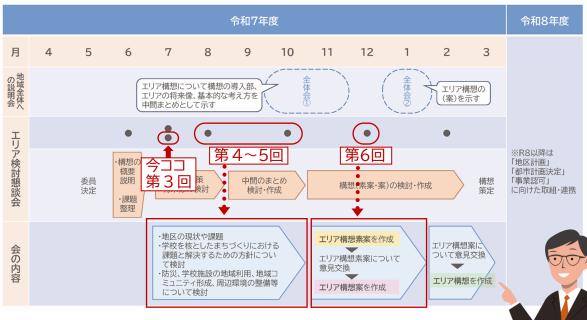


コンセプト、つまり将来像を言葉で掲げるということね! 核エリアをみるとコンセプトには<mark>人やみどり</mark>、西原総合教育 施設にはスポーツクラブもあるから、<mark>スポーツ</mark>についても考 えるのがよさそうだわ。

エリア構想の今後の検討について



コンセプトについて話し合った後は、何を検討していくの? 前回話し合った現状と課題や今回のコンセプトは今後どのように使われるの?



本日エリア構想のコンセプトを話し合った後、第4~5回懇談会では、前回話し合った現状と課題について、コンセプトに沿う形で解決するための具体的な方針について話し合います。

委員の皆さまの活動の中で感じたことなどのご意見をいただき、解決方 法を見出していきたいです。

また、防災、学校施設の地域利用、地域コミュニティ形成、周辺環境の整備等についても話し合い、分野横断的な視点によるまちづくりも進めていき、第6回ではエリア構想の素案をお示しします。



今後考える具体的な検討にブレを生じさせないためにも、コンセプトを決めるのは必要ね!